

令和 5 年度

# 1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム ほほえみ（りんどうユニット）

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0393100219		
法人名	株式会社 海山会		
事業所名	グループホーム ほほえみ（りんどうユニット）		
所在地	〒028-7911 岩手県九戸郡洋野町種市種市41-15-2		
自己評価作成日	令和5年8月15日	評価結果市町村受理日	令和5年11月8日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

重度になっても、利用者様やご家族様が安心して利用を継続していただけるように、環境整備や職員の研修等を行っている。また、コロナが5類になったことで、最低限の感染予防を行い、地域での面会制限をかけずにどなたでも面会をしていただけるようにしている。ご家族様との関係が切れないように、行事の写真を玄関に飾ったり、面会に来た際に渡すなどしている。  
地域住民参加での夏まつりを開催したり、隣接している小規模多機能ホームと交流を図るなどし、出来るだけ社会から孤立しないようにしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は、青森県階上町と接する洋野町の角の浜地区にあって、太平洋を望む高台に立地している。運営母体は旧角浜小学校敷地に平成24年から小規模多機能ホームを運営し、その後同一敷地内に本事業所を開設して今年で5年目になる。「安心・安らぎ・まごころ」を基本理念に掲げ、介護度4以上の介護度の高い利用者を積極的に受け入れている。理学療法士によるリハビリの実施や、中重度の方の受け入れのために特殊浴槽を設置し、また医療的ケア研修への参加を進めるなど職員の養成に対しても積極的である。利用者家族、主治医と連携して看取りケアも実施し、看取りに関して重度化した場合の対応方針も策定し、その手順を明確にしている。今年は、夏祭りイベントである海山会を4年ぶりに開催し、地域の方々や利用者家族とも懇親を深めることができています。職員は、年度末に翌年度の取組み目標を定め、目標の達成に向けて精一杯業務を遂行している。

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年9月26日

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ほほえみ (りんどうユニット)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送りで理念を復唱している。また職員会議等で職員がどのように解釈しているか確認している。	理念は「安心・安らぎ・まごころ」とし、職員及び利用者にも分かりやすいような表現としている。毎年介護目標を作成し、年度末に見直し次年度の目標を作成している。今年度の介護目標は利用者にも分かりやすいよう「目くばり・気くばり・心くばり」を掲げ、利用者のほほえみ溢れるケアを目指している。事業所として、日々利用者が楽しく生活できる対応を心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	4年ぶりに、隣接している小規模多機能ホームと合同で祭りを開催し、ご家族様や地域住民も参加して頂いた。	今年は、4年ぶりに海山会祭りを7月下旬に開催でき、地域の方々、家族等およそ100人の参集があり好評を博した。出店では焼き鳥や田楽など、イベントでは地域婦人会、子供たちのダンスチームの演技のほか、地元の歌手が参加し大いに盛り上がり、地域と事業所の交流が図られた。災害等で避難が必要となった際に、安全な場所への移動を地元の地域協力隊の方々が支援する体制も整っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で認知症について話をしたり、今年度は認知症カフェの開催も予定している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の状態や事業所での様子の他に、事故・ヒヤリハットの報告も行い、サービスの向上に努めている。	今年度は、コロナ等の影響もなく、対面で3回開催している。地区会長、民生委員、消防関係者、地域包括支援センター職員(行政)の参加を得られている。避難訓練に関しての委員からの提案に基づき、動線の確保などの確認等も行っていきたくしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行方不明になった際のSOSネットワークへ参加し、協力体制を整えている。特に地域包括との情報交換は、密に行っている。	介護保険の手続きなどに関して、地域包括支援センターと連携して対応している。地域包括支援センターが中心となって運用しているSOSネットワークを利用し、関係機関等へ利用者情報(データ)を提供するなどし、協力体制の充実を図っている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ほほえみ (りんどうユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の職員会議を通じて身体拘束等の具体的な事例や行為について再確認、検討し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、身体拘束委員会で会議を行い、見直しを実施している。	毎月1回、両棟の管理者、リーダーと看護師の5人による身体拘束防止委員会を定期的開催しているほか、毎月の職員会議において、拘束のないケアの取組みを確認している。毎年1回以上、身体拘束をテーマとする職員研修を行い、身体拘束防止の趣旨を徹底している。センサー利用者は2名、ミトン利用はない。施錠は、日中の離設があったことから玄関施錠は日中もやっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議などを通じて身体拘束や虐待の具体的な事例や行為について再確認、検討しながら虐待防止のケアに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や日常生活自立支援事業については理解が不十分である為、定期的な勉強会等を行い、学ぶ機会を作っていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に理念、サービス内容、個人情報の取り扱い等の説明を行い、出来るだけ分かりやすい説明を心がけている。また改正時は口頭と文面での説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や職員会議で意見等を伝え、都度検討を行っている。	運営推進会議への出席について、利用者家族全員へ参加を呼びかけしている(数名参加)が、利用者の参加は今のところ難しい状況にある。家族には利用者が医療機関受診の際に連絡し、事業所に来てもらっている。家族からは対面での面会を希望する旨の話がある。利用者から食べ物についての要望等があった際には、対応するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や、日々の業務の中で相談しやすい環境作りを心がけており、職員一人一人の意見やアイデアを取り入れて運営に反映させている。	毎月の職員会議のほか、年1回職員面談を実施し、要望等を把握している。非常勤の職員からは、勤務時間や休暇の変更などのシフトに関する要望が多い。また業務に関する改善の要望等もある。個人目標は毎年度末に目標を立て、次年度の研修などで対応していくようにしている。	

事業所名 : グループホーム ほほえみ (りんどうユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	設備や業務内容等で不具合があった場合は、出来るだけ早く対応する様にしている。働き方に関しても、出来るだけ希望に添えるように対応している。また、Xmas、誕生日には、ささやかでもプレゼントを渡している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人研修計画をたて、自己学習する機会をもうけたり、資格取得に向けた資金の援助を行っている。また外部・内部研修へ参加してもらい、報告書作成し、職員全員で共有出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型協会への加入や、地域包括支援センター主催の研修会等へ参加を促している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様からの訴えに対しては、否定しない対応を心がけている。 また、利用者様やご家族様に事前に見学に来て頂いたり、利用前には、必ず担当ケアマネから情報収集を行い、本人の状況を把握し、安心してサービスが利用できる様に心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事業所への要望については、出来るだけ対応している。 事前の調査等で金銭的な部分も含めたご家族様の困りごとを確認し、不安なく利用して頂けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、ご家族様双方と良く話し合い、出来るだけ要望に応えられる様に努めている。また、状況により、他のサービスを検討するなどし、利用者様やご家族様の状況に合わせたサービス利用が出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の個性や生活歴を大切に、本人ができることは可能な限り本人にして頂き、できないことは無理はせずにサポートしている。寄り添って生活をしていく中で信頼関係を築くことに努めている。		

事業所名 : グループホーム ほほえみ (りんどうユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様が安心して生活できるよう、適時家族に近況報告を行い、時には家族の協力を得て、本人をサポートできる関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の生活歴や、馴染みの方などを聞き取り、本人の希望に沿った支援や、馴染みの方との関係や、場所が途切れないように努めている。	夏祭りの海山会イベントを開催したこともあり、最近では家族以外の近所の方が会いに来てくれることもある。また、隣の小規模多機能ホームの方と時々レクリエーションするなど、楽しい関係を築くことができている。理髪は2か月ごとに地元の理美容店の方が来所している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の人間関係が円滑になるように、職員が間に入りながら見守りや、関わり合いを支えるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様とは電話でやりとりし、継続的な関わりを大切にしている。退所後や入院中は、関係者やご家族様に状況の確認等を行い、情報交換は密にし、相談やフォローも受けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の希望や思いを傾聴し、意向に添えるように努めている。また、困難な場合は家族に連絡・相談しながら利用者様本位で検討するよう心がけている。	自ら意思表示等できる利用者が1名、尋ねると答える利用者が4名はいる。声掛け等は状況に応じて適宜行うほか、入浴中には利用者様と様々なことを話すことができ、意向の把握等にも役立っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活や習慣などご家族様がわかる範囲で情報収集し、思入れの物や写真などを持ってきてもらい、身近に感じてもらえるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	リスク確認等を職員同士で話し合い、ADLの把握に努めている。また、ストレスが極力かからないよう、本人の希望や訴えを共有し、実現できるよう話し合いを行っている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ほほえみ (りんどうユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年に一回、または本人の状態の変化がある際は、その都度、カンファレンスを行い、ケアプランの更新をしている。また、定期的に家族からの聞き取りも行い、意向に沿った支援を心掛けている。状態の変化がある際や症状の進行があった際には、かかりつけ医に相談しながらケアプランの作成を行っている。	ケアマネである管理者が計画を作成、見直しを行っている。計画の見直しは、定期的に6か月毎に行うほか、体調の変化などに応じて随時行っている。見直しに際しては、職員間の話し合いをリーダーを中心に行い、職員の意見反映に努めている。また、カンファレンス前に利用者家族に聞き取りを行うなど、ケアマネがモニタリングを行い計画の作成に反映している。なお、必要に応じて看護師にも相談している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	体調不良時や急変時などの緊急対応を行った際には、時間経過とともに詳細に記入している。普段の様子や行ったケアに対する反応などは、上手く情報共有が出来ていない点もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	求められた事に対し、報告・連絡・相談を徹底し、出来る限り早急に回答し実践ができるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々、関係機関と協力しながら支援に努めている。また、感染拡大防止に努めながら行事等を行い楽しんでいただける機会を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医の確認を行い、出来るだけ希望に沿った病院を受診できるようにし、定期受診・往診や緊急時の対応をして頂いている。	17名の利用者が協力医をかかりつけ医とし、種市病院に5名が、ひだまり診療所に12名が受診している。精神科、耳鼻科等は八戸の病院を受診している。付き添いは基本的に職員が対応しており、受診の結果についてはその都度家族へ口頭で報告している。なお、歯科は訪問診療での対応である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護からの情報をベースに、全職員で情報を共有し、利用者様の状態の変化や急変時に対応できるようにしている。		

事業所名 : グループホーム ほほえみ (りんどうユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関との情報交換を密に行い、ご利用者様やご家族様が安心して入院治療が受けられるよう支援している。また、退院後の生活での注意点等の情報を得たり、相談をするよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階からご利用者様及びご家族様の意向を確認している。また、状態の変化に伴い、再度治療方針等について話し合いを行い、事業所でできる事を支援している。	重度化した場合における対応に係る指針を策定しており、入居時に重要事項説明書で利用者及びその家族に説明している。これまで5名の看取りを行っており、入居している利用者のおよそ半数は看取り希望とのことである。また、医師や看護師等とも連携が図られており、重度化した場合の体制も整えられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、救急隊を講師として招き、全職員参加で救命救急の講習を行っている。またその他にも、適宜、会議等で指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルの作成や年2回の避難訓練時にも発電機の使用方法等の確認をしている。今年度は、地域協力隊も参加していただき、避難訓練を行った。	避難訓練は、5月(日中想定)と10月(夜間想定)の年2回の実施である。地域の方々及び消防関係者などによる地域協力隊があり、避難訓練時にも参加している。特に災害のない地域ではあるものの、停電が要注意で、訓練時には発電機の使い方も実施している。乾麺、水、米などを5日備蓄している。	運営推進会議において、委員から予定されている訓練以外に抜き打ちでの訓練も必要との意見が出されていることでもあり、今後の災害発生に備え、職員招集を抜き打ちで行うなど、様々な取り組みを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室が利用者様のプライバシーの空間と認識し、訪室時や退室時に声を掛けている。また、一人一人の性格を情報共有し、相手が不快に感じない声掛けを意識しケアを行っている。	入浴介助は、ほぼ利用者全員が介助を必要としている。排泄介助は、個々の羞恥心に十分留意して行っている。オムツ交換時は自尊心を傷つけないように直接的には話さないなど、声掛けには注意するように心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話や、しぐさ、行動で感じたり、意思疎通が難しいご利用者様には、ご家族様に相談している。外出等はご本人様に確認しながら行っている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ほほえみ (りんどうユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常からコミュニケーションを取り、行動を見守りながらそれぞれに出来ることを見極めて、自発的な希望が見つけられるよう関わっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度床屋さんに来てもらい、利用者の希望に沿ったおしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行い、出来る限り嗜好品を取り入れたり、食事形態、食器などご利用者様の状態に合わせて工夫している。また、ご利用者様、職員と一緒に下膳や食器拭きも行っている。	食事メニューは食事委員会で献立を作っている。調理職員が食材の買い出しをし調理するが、不在の場合は介護職員が調理する。自身で食事できる利用者は6名、一部介助が必要な方が8名ほど、介助がなければ摂食できない方は4名である。正月には白玉団子などを提供している。また、利用者1名がジャガイモの皮むきや食器拭きなど手伝ってくれる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事委員会が作成するメニューを基本に、好み等検討の上、個々に合わせた食事形態で提供している。適宜お茶等の水分補給を行っている。また摂取量が少ない利用者様には、食事管理表に記録し利用者様の状況に合った食事や水分を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けし、見守りや一部介助にて口腔ケアを行っている。夕食後は義歯洗浄剤で消毒している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	居室担当や排泄委員会を中心に排泄量や傾向を検討し、コスト面も考慮しながらトイレ誘導やご利用者様に適したオムツカバー、パットを発注して使用していただいている。	自立者以外にはトイレ誘導を行っている。リハビリパンツ利用は3名、オムツ利用は13名である。個人ごとの排尿間隔に応じて、声掛け等を行い支援している。なお、当事業所へ来てから、オムツからリハビリパンツが可能になった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた便秘予防と対策を行っている。乳製品の提供と水分チェックを行い、運動参加への働きかけや必要に応じて便秘薬の服用で調整している。		



令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ほほえみ (りんどうユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	入浴日は決まっているが、本人が望まない時は変更を行っている。入浴剤を使用し入浴を楽しめるように対応している。	一人週2回午前中の入浴としているが、希望すれば毎日可能である。一般浴は2名で、それ以外はリフト浴・特殊浴とし2名の職員が対応している。入浴剤は3種類を用意しており、季節に応じて菖蒲湯などを提供し楽しんでいただいている。入浴時は自分の好きなBGMを流して楽しむ方もいる。入浴を拒む方も時々いるが、時間をずらすなどし、気持ちが落ち着いたときに入浴していただくなどの配慮もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状況をみて居室での臥床時間を設けたり、夜間は状況に応じた衣類、室温調整を行いながら居室でゆっくり休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的・副作用・容量を理解し、症状の変化に配慮し、医師との協力を仰ぎながら服薬支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合った趣味、嗜好を見出し、気分転換になるよう努めている。また、一緒に食器拭きや洗濯物をたたんだり、無理なく楽しみながら残存機能を活用できるような取り組みをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の変化に応じ、ドライブ等の希望に沿った外出を支援している。	天気の良い日には30分程度散歩に出かけたり、季節に応じて4月には八戸へ花見ドライブ、10月には紅葉ドライブとして階上岳などへ行ったりして、自然を楽しむ支援を行っている。また、利用者の昔なじみの地域や場所へ出向くこともあり、様々な機会を提供するよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事業所で預かり管理しているが、希望があればいつでも利用できるようにしている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ほほえみ (りんどうユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話を掛けたい時には意向に沿っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は利用者様に不快な思いをさせることなく音量や温度、障害物に配慮している。また、季節を感じられるような装飾や物品の配置を行い、居心地よく過ごせるような空間づくりに努めている。	空調はエアコンで適温に温度調整されている。ロビーには天窓があるため明るく、食事用のテーブル、ソファや畳などが配置され、くつろぎやすい工夫がなされている。日中はほぼ全員がロビーの思い思いの場所で過ごしている。季節の飾りとして、カボチャやクリなどのほかハロウィンなどの飾りがされ、親しみやすさを醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者に意見を聞き、その時々で思い思いに居心地よく過ごせるように努めている。また、利用者間の相性を把握し、座席の配置などに気配りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その方らしく使い慣れた品物を持ち込んで頂き、自宅での環境に近づけるように安心して過ごせるような居室づくりを支援している。	居室はエアコンで空調管理され、ベッド、箆笥、カラーボックスが常設されている。利用者ごと、家族写真やお花、レクで自作したものやテレビなど、馴染みの物が置かれ、気持ちよく過ごしやすい環境が整っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒や転落など事故につながるものは職員間で情報共有し、一人一人のレベルに応じて、できるだけ自立した生活を安全に送れるように支援している。		